

# **RouteMagic**

## **RouteMagic Server**

---

リリースノート

---

**- Version 3.0.0 -**

# はじめに

---

## 本書の目的

---

本書は、RouteMagic Server（以下 RMS と記述）Version 3.0.0 に関して、概要および旧バージョンからの変更点を中心に記述しています。RMS Version 3.0.0 の基本的な機能ならびに操作方法については、下記の RMS 3.0 対応版マニュアルをご参照ください。

## 本リリースの動作環境

---

RMS Version 3.0.0 は、Version 2.0 以上のソフトウェアが搭載された RMC に対応しています。ただし、一部の機能は RMC に搭載されるソフトウェアが Version 2.2.2 以上であることが必要です。

## 関連ドキュメント

---

RMS には本書の他に、次のドキュメントが用意されています。

- **RouteMagic Server ユーザーズ・ガイド –管理者編–**  
RMS システム、及び RMS を利用するネットワーク管理システムの運用に責任を持つ方を対象として、RMS を利用する際に必要な初期設定と管理作業を記述しています。
- **RouteMagic Server ユーザーズ・ガイド –オペレータ編–**  
ネットワーク管理・監視の担当者として RMS を利用する方を対象として、RMS の機能とその操作に関して記述しています。
- **RouteMagic Server インストール・ガイド**  
Linux に関する基礎知識をお持ちの方を対象として、Linux サーバ上への RMS のインストールと初期設定作業に関して記述しています。旧バージョンの RMS からの移行に関しても本ドキュメントをご参照下さい。
- **RouteMagic Server プラグイン・ユーザーズガイド**  
RMS プラグインの機能とインストール作業について記述しています。
- **RouteMagic for SNMP Manager ガイド**  
SNMP マネージャと RMS を連携させる機能について記述しています。
- **RouteMagic Server メンテナンス・ガイド**  
RMS システムを導入されたユーザに必要となる、日常のメンテナンス作業について記述しています。

# 目次

---

<b>1. RMS Version3.0 の概要</b>	<b>1</b>
1.1 ユーザインタフェースを一新	1
1.2 監視機能の強化(トップページでの監視)	1
1.3 ページの自動更新機能	2
1.4 カスタマイズ機能	2
1.5 ログ検索機能の強化	2
1.6 SNMP トラップ通知機能 (RouteMagic for SNMP Manager)	2
1.7 インシデント管理機能の強化	3
1.8 データメンテナンス機能の強化	3
1.9 パフォーマンスの向上	3
<b>2. RMS Version3.0.0 の変更点</b>	<b>4</b>
2.1 動作環境	4
2.2 仕様変更	4
2.3 不具合の修正	5
<b>3. 既知の問題点／制限事項</b>	<b>6</b>

# 1. RMS Version3.0 の概要

RMS Version3.0 では、Version2 から次のような新機能追加・機能強化が行われています。

## 1.1 ユーザインタフェースを一新

RMS Version 3.0 では、日々の管理業務を行うオペレータが必要な情報をスムーズに入手でき、すばやくオペレーションを行っていただけるようにユーザインタフェースを一新しました。(下図参照)

The screenshot displays the RouteMagic Server Version 3 web interface. At the top, there's a navigation bar with 'RouteMagic Remote Network Management' and 'RouteMagic Server Version 3'. Below this, there are dropdown menus for '装置メニュー', 'RMCメニュー', and 'ユーティリティメニュー'. The main content area is titled 'オフィス・ルートレックのルートレック太郎さんのトップページ'. A red notification box says '管理者からのお知らせ' (Notice from administrator) and 'RouteMagic Server Version 3 の発売を開始しました! (2003/05/21)'. Below the notification, there's a 'メインメニュー' (Main Menu) section with two columns of links. To the right, there's a '管理担当装置の統計情報' (Statistics for managed devices) section showing 'アクティブインシデント' (Active Incidents) and '各種ログの発生状況' (Log Occurrence Status). The 'アクティブインシデント' section shows a table with columns for incident type, count, and time. The '各種ログの発生状況' section shows a table with columns for log type, final reception time, and counts for 24 hours and 3 days. Below these, there's a '担当装置のステータス情報' (Status information for managed devices) section showing '192.168.10.188/COM1' with 'Windows' OS and '応答なし' (No response) status. To the right, there's an 'RMCのステータス情報' (RMC status information) section showing '(ステータスに問題があるRMCはありません)' (No RMC with status problems). At the bottom, there's an 'イベントログ (24 時間以内のログ 38 件中 最新 10 件)' (Event Log) section showing a table of recent events. The table has columns for time, device ID, icon, event type, RMS, and description. The events include 'SNMPトラップ通知' (SNMP trap notification) and 'インシデント発生' (Incident occurrence).

## 1.2 監視機能の強化(トップページでの監視)

RMSにオペレータがログインして最初に表示される画面(トップページ)で、ログ発生状況・インシデント発生状況・最新のログ・ステータス異常の装置/RMCなどの最新情報が表示されます。オペレータは、トップページに表示されている情報を確認するだけで、どの装置で重要な事象(障害など)が発生しているかを把握することができ、障害発生時にはスムーズに対処作業を始めることができます。

### 1.3 ページの自動更新機能

装置/RMC のステータス情報・ログ情報など、リアルタイムに変化していくデータが表示されているページは、一定間隔で自動的にリロードして最新の情報が表示されるようになりました。これにより、ブラウザの更新ボタンをクリックすることなく、常に最新のステータスを確認することができます。また、ページ自動更新の間隔は、ログインするオペレータごとにカスタマイズすることが可能です。

### 1.4 カスタマイズ機能

ログインするオペレータの用途に合わせて、操作性に関わる項目のカスタマイズが可能になりました（表示オプション）。ログ検索画面などで頻繁に利用する条件設定をデフォルトに変更するなどのカスタマイズを行うことによって、オペレータがスムーズに情報収集できるようになります。

この機能で次のような項目のカスタマイズがオペレータごとに設定できます。

- ◆ ポップアップ通知の表示間隔（表示しない設定も可）
- ◆ ページ自動更新間隔（自動更新しない設定も可）
- ◆ トップページに表示するデータの選択
- ◆ 各種ログ検索ページのデフォルト設定値（デフォルト表示件数など）

### 1.5 ログ検索機能の強化

監視対象装置の各種ログ情報（コンソールメッセージログ・イベントログ・オペレーションログ）や RMC のログ情報（RMC イベントログ・RMC 通信ログ）、インシデント情報など、RMS に蓄積される様々な情報の検索・絞り込み機能が大幅に強化されました。オペレータは適切な条件を設定して検索・絞り込みを行うことによって、目的の情報をすばやく入手することができ、よりスムーズにオペレーションが行えるようになりました。

また、複数の装置、RMC にまたがった串刺し検索も可能になり、事象の把握が行いやすくなりました。

### 1.6 SNMP トラップ通知機能 (RouteMagic for SNMP Manager)

RMS で検知した装置/RMC の各種イベント（インシデント発生など）を、任意の SNMP マネージャに SNMP トラップで通知できるようになりました。

RMS から通知される SNMP トラップは、実際にイベントが起きた装置からのトラップとして送信されます。この機能によって、SNMP によるネットワーク監視と RouteMagic ソリューションによる強力なコンソールポート監視の連携が行うことが可能となります。

## 《適用例》

- 装置のコンソールポートから出力される特定のメッセージの発生を SNMP トラップで SNMP マネージャに通知する。
- SNMP マネージャと IP 接続が行えない場所に設置されている装置に RMC を接続して、RMS を通じて SNMP トラップを通知することで SNMP マネージャ上で一元監視を行う。

なお、本機能のご利用に際しては別途追加ライセンスが必要となります。

詳しくは、購入元の代理店までお問い合わせください。

## 1.7 インシデント管理機能の強化

重要度が高いコンソールメッセージを障害情報として管理するインシデント機能に、「タイトル」・「概要」といった付加情報を設定できるようになりました。これにより、オペレータがインシデントの内容を把握しやすくなり、インシデント解決後も障害対処記録データベースとして、蓄積された情報を有効に利用できるようになりました。

## 1.8 データメンテナンス機能の強化

管理者権限において、各種装置／RMC のログ情報・インシデント情報などを任意のタイミングで削除できるようになりました。

この機能により、装置の導入時などに不要なログメッセージが大量に発生したような場合でもすぐに対処できます。また、不要なデータを随時削除することにより、ディスクの使用量を抑え、データの検索・画面表示のスピードを快適に維持していくことができます。

## 1.9 パフォーマンスの向上

データベースの検索速度を向上させるチューニングを行いました。データが大量に蓄積されている環境において、各種ログ情報の検索にかかる時間が短縮されました。

## 2. RMS Version3.0.0 の変更点

RMS Version3 では、従来の Version2 と比べ操作性に関する全面的な変更が行われています。本章では操作性以外の仕様変更点等を記述します。

### 2.1 動作環境

RMS 3.0 の動作環境は以下の通りです。

#### ■ ハードウェア要件

	最小構成	推奨
◆ CPU :	IA32	Pentium 2 以降
◆ Memory :	128 MB 以上	512 MB 以上
◆ DISK :	5 GB 以上 (空き領域)	

#### ■ ソフトウェア要件

- ◆ OS : RedHat Linux 7.2 または 7.3  
RedHat Linux Advanced Server 2.1

### 2.2 仕様変更

- ◆ 定石コマンドメニュー  
各装置の定石コマンドメニューのデフォルト設定はなくなり、ユーザ定義分だけになりました。  
  
従来提供していたデフォルトの定石コマンドメニューは、RMS の CD-ROM でサンプルデータとして提供されています。
- ◆ インシデント発生時のアクション  
インシデント発生時のアクション(自動実行コマンド)はデフォルト「なし」となりました。
- ◆ パスワードの取り扱い  
RMS 管理者・オーナー管理者・オペレータのいずれでも、空のパスワードを許可するようにしました (rmsconf のオプション「allow-empty-password」)。
- ◆ 装置/RMC のログ保存日数  
装置/RMC のログ保存日数のデフォルトが 100 日分に変更されました(従来は 365 日)。
- ◆ ログの表示画面の機能変更  
装置/RMC のログ表示機能で、従来あったカレンダー表示画面はなくなりました。代わりに日時絞り込み表示をご利用ください。

- ◆ レポート機能（データのエクスポート）  
Version2 の「レポート出力機能」は、Version3 では「データのエクスポート機能」となりました。

オペレータ権限でログインした状態で、「イベントログ」「コンソールメッセージログ」「RMC イベントログ」「インシデントリスト」の検索・絞り込み結果表示画面に表示される「この結果をエクスポート」ボタンを押すことで、画面に表示されている検索・絞り込み結果の内容がファイルに出力されます。出力されたエクスポートデータファイルは、ユーティリティメニューの「ダウンロードファイルリスト」よりダウンロードして利用することができます。

なお、エクスポートデータの出力形式は Version2 と同様に「CSV」と「XML」の 2 種類を選択することができます。

## 2.3 不具合の修正

RMC Version 3.0.0 で対応されている問題点は、以下のとおりです。

1. 環境によってはトポロジーマップの表示がグレーアウトする場合がある




## 3. 既知の問題点／制限事項

### 1. ファイル、ダウンロード時の誤動作

使用している Web ブラウザのバージョンによっては、エクスポートデータなどのダウンロード操作が正常に実行されず、HTML ドキュメントが出力されてしまう場合がある。

- ⇒ Web ブラウザの問題ですが、ブラウザのバージョンアップなどの対応が困難な場合は、以下の操作によって対応して下さい。

ダウンロード時に、 のクリック機能を使用せず、マウスの右クリック操作によって「対象をファイルに保存」を選択します。

ファイルの種類が Microsoft Excel CSV ファイル、もしくは XML document となり、CSV または XML 形式のファイルが出力されます。

### 2. CSV ファイルの処理における制約事項

CSV ファイルとして出力されたエクスポートデータをダウンロードし、これを表計算ソフトや DB ソフトでオープンした場合、情報が正しく表示されず、データの一部がカットされてしまうことがある。

- ⇒ この問題は、コマンドの実行結果、データの 1 アイテムが長文の場合に発生します。1 アイテムの長さが、処理すべきソフトウェア側で収容可能な最大長や表示限界をオーバーしてしまったために発生する問題ですので、他のツールをご使用ください。（処理、あるいは表示可能な最大値は、ご使用のソフトウェアに依存します。）

### 3. 定石コマンド発行時の問題点

接続されている RMC の設定が "コマンドを発行しない" となっているにもかかわらず、監視対象装置に対するコマンド発行が実行されてしまう。

- ⇒ コマンド発行は正常に実行されないため、エラーが通知されます。「RMS からのアナウンス」または「装置イベントログ」に "装置 はコマンド発行をしない設定になっています" が表示されます。コマンドの発行結果はいずれかで確認してください。

# 製品に関するサポートのご案内

---

製品に関するお問い合わせやテクニカルサポートについては、下記の弊社サポートページをご覧ください。

<http://www.routrek.co.jp/support/>

また、製品に関する最新情報やマニュアルも上記ページからダウンロードすることができますのでご参照ください。

Copyright©2003 株式会社 ルートレック・ネットワークス All rights reserved.  
このマニュアルの著作権は、株式会社 ルートレック・ネットワークスが所有しています。  
このマニュアルの一部または全部を無断で使用、あるいは複製することはできません。  
このマニュアルの内容は、予告なく変更されることがあります。

Copyright©2003 株式会社 ルートレック・ネットワークス All rights reserved.  
RouteMagic Server の著作権は、株式会社 ルートレック・ネットワークスが所有しています。  
このソフトウェアの一部または全部を無断で使用、あるいは複製することはできません。  
このソフトウェアは、使用許諾契約書に記載されている以外の使用はできません。  
このソフトウェアの仕様は、予告無く変更されることがあります。

商標について

ルートレック・ネットワークスのロゴおよび RouteMagic は、株式会社 ルートレック・ネットワークスの登録商標です。  
本書に記載されている製品名等の固有名詞は、各社の商標または登録商標です。



株式会社ルートレック・ネットワークス  
〒213-0011 神奈川県川崎市高津区久本3-5-7 ニッセイ新溝ノロビル  
Tel. 044-829-4361 Fax. 044-829-4362